

# 大村市子どもの生活実態調査 集計結果概要

少子化や子どもの貧困等の問題が全国的に深刻化・顕在化していく中、本調査は、本市における子どものいる家庭の生活状況や子どもの様子、子育ての悩みや困りごと等の実態を把握することを目的に実施しました。

## 【対象者と回収状況】

調査は、平成 29 年 10 月に市内の小学校 5 年生 992 人、中学校 2 年生 965 人を対象として、“保護者向け調査”及び“子ども向け調査”の 2 種類で実施しました。

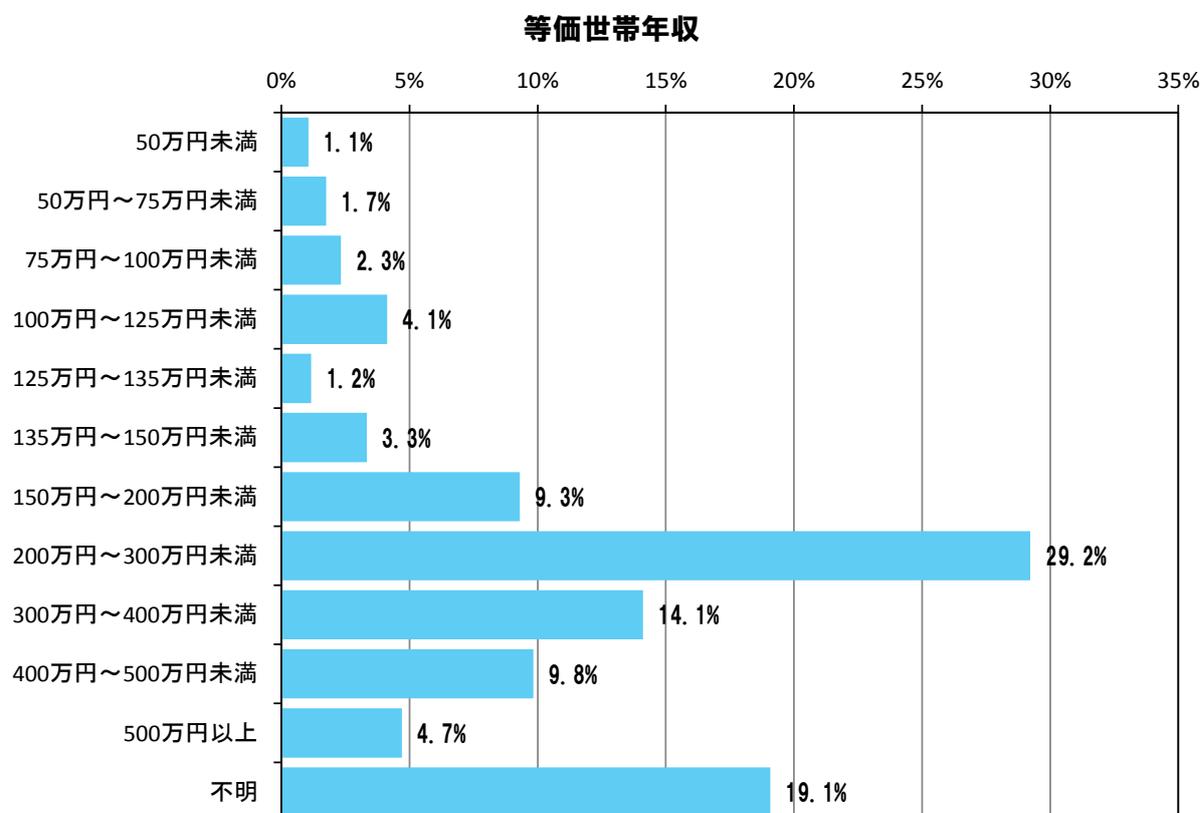
回収した調査票は、保護者向けと子ども向けを併せて 1,892 件（世帯）で、回収率は保護者向けが 86.7%、子ども向けが 96.1%でした。

## 3つの指標に基づく世帯の類型化

本調査では、“等価世帯年収指標”“剥奪指標”“困窮指標”の 3 つの指標に基づき、“生活困窮”の視点からの世帯の類型化を行いました。

## 【等価世帯年収指標】

等価世帯年収指標は、「平成 27 年国民生活基礎調査」による貧困線である 135 万円未満の世帯を“生活困窮世帯”と判別することとしました。

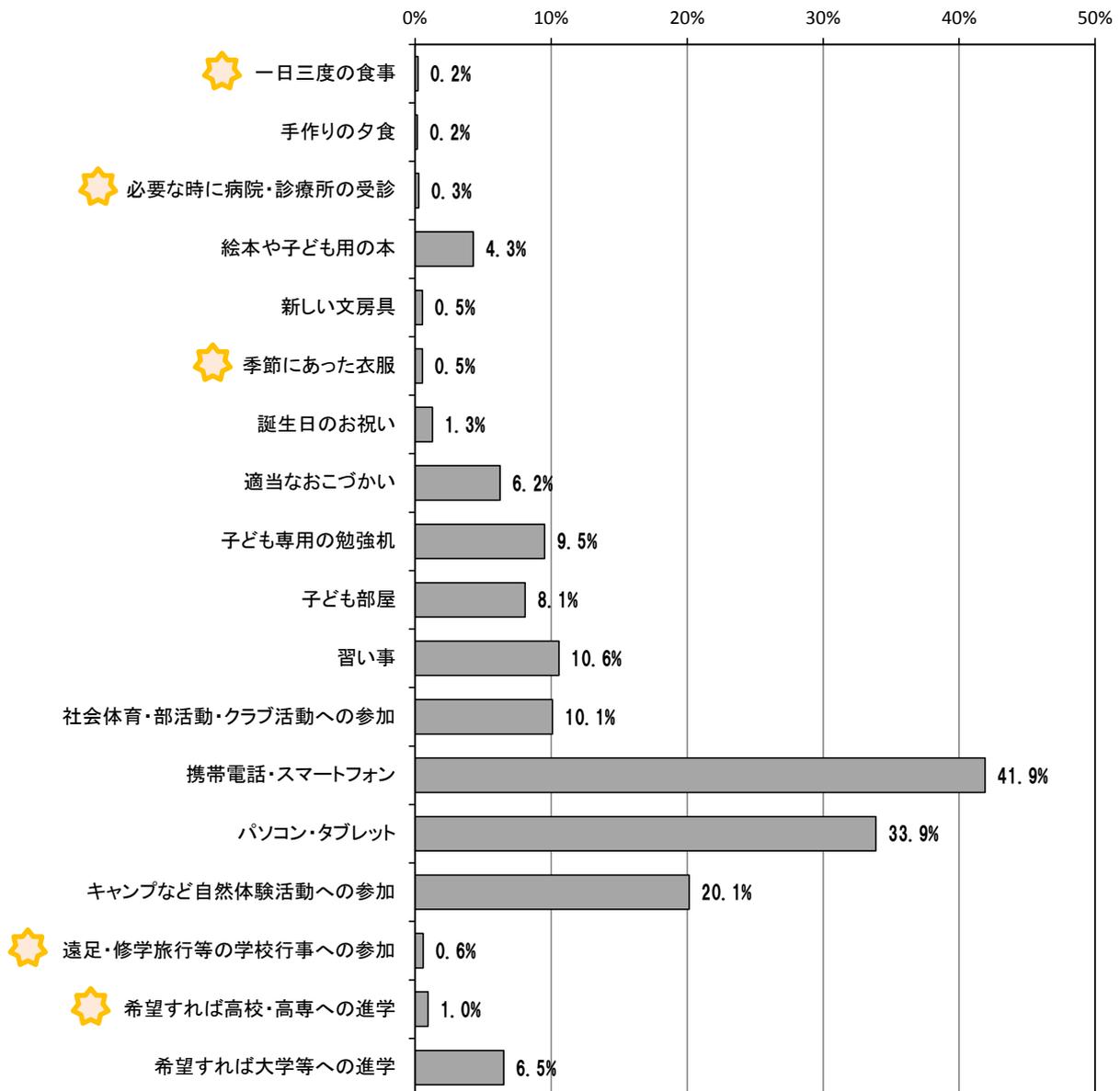


## 【剥奪指標】

子どもに関する環境・モノ 18 項目について、それが“子どもにとって必要であるか”、また、“お子さんに与えられているか(与えられそうか)”を伺ったところ、75%以上の保護者が“必要である”と考えている環境・モノが5項目あったことから、この5項目を剥奪指標として、これらが与えられていない世帯を“生活困窮世帯”と判別することとしました。

- | 剥奪指標            | ○ |
|-----------------|---|
| 一日三度の食事         | ○ |
| 必要なときに病院・診療所に行く | ○ |
| 季節にあった衣服        | ○ |
| 学校行事への参加        | ○ |
| 高校・高専への進学       | ○ |

### お子さんに与えられていない(与えられそうにない)環境・モノの割合

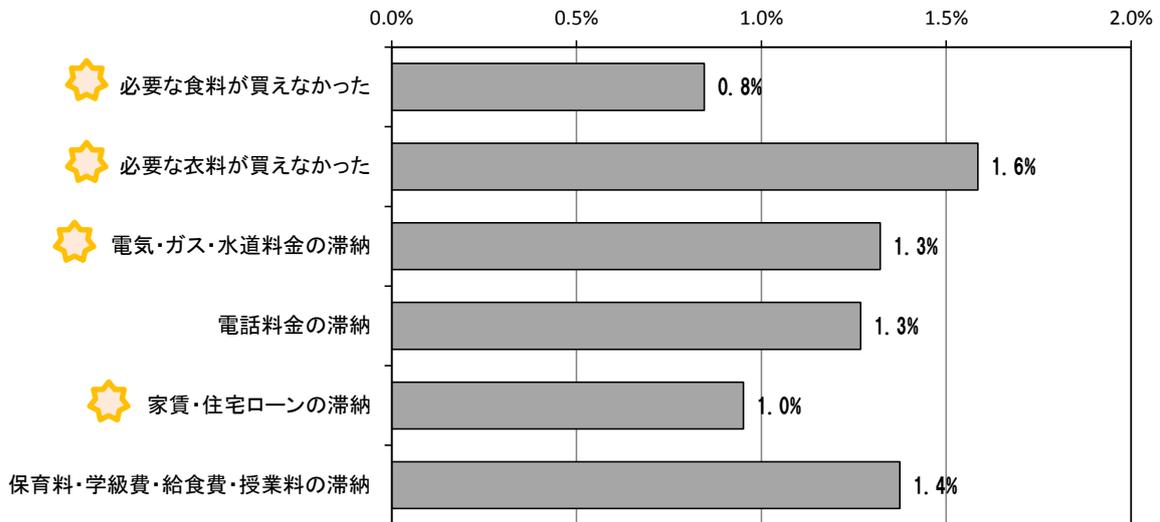


## 【困窮指標】

経済的理由による困窮経験を伺った中で、“必要な食料が買えなかった”等の衣食住に大きく関わる4項目を困窮指標として、その経験が頻繁にあった世帯を“生活困窮世帯”と判別することにしました。

- 困窮指標
- 必要な食料が買えなかった
  - 必要な衣料が買えなかった
  - 電気・ガス・水道料金の滞納
  - 家賃・住宅ローンの滞納

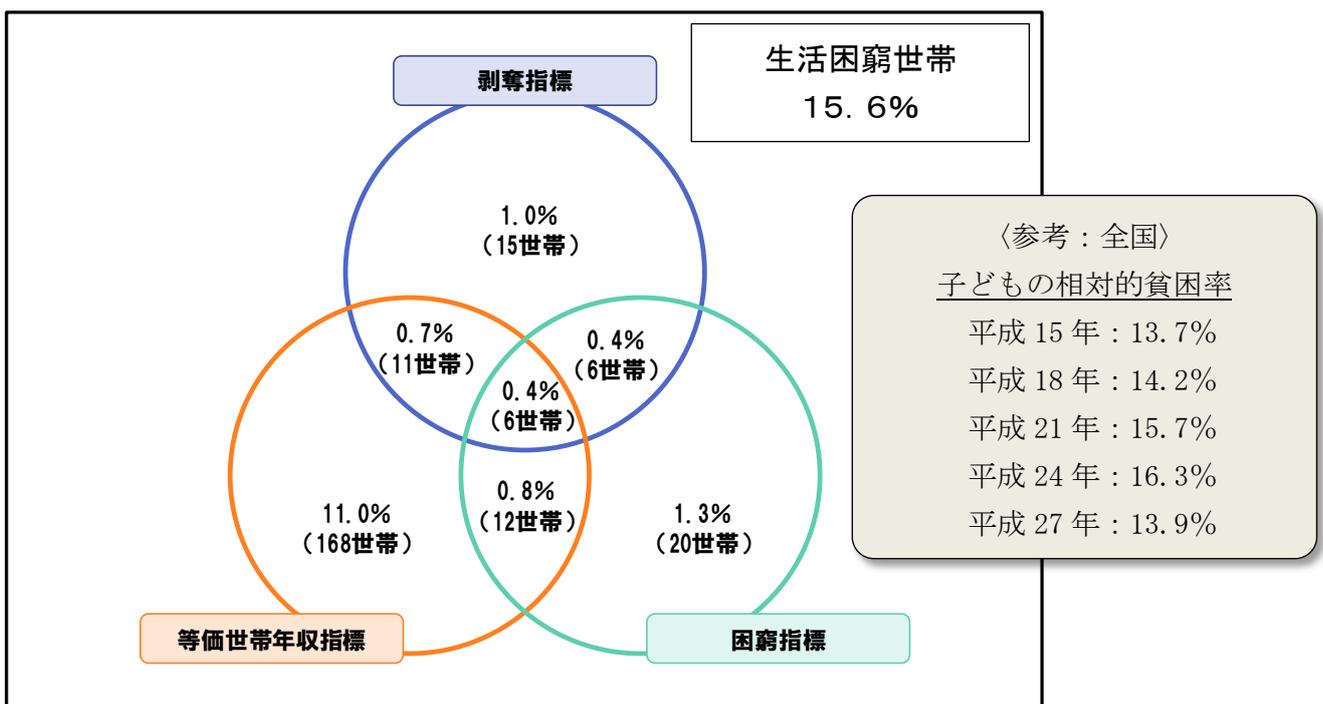
経済的理由による困窮経験  
（“頻繁にあった”の割合）



## 【生活困窮世帯の割合】

前掲の3つの指標による世帯の類型化判別を行った結果、小学5年生・中学2年生のいる世帯について、“生活困窮世帯”の割合が15.6%、それ以外の世帯が84.4%となりました。

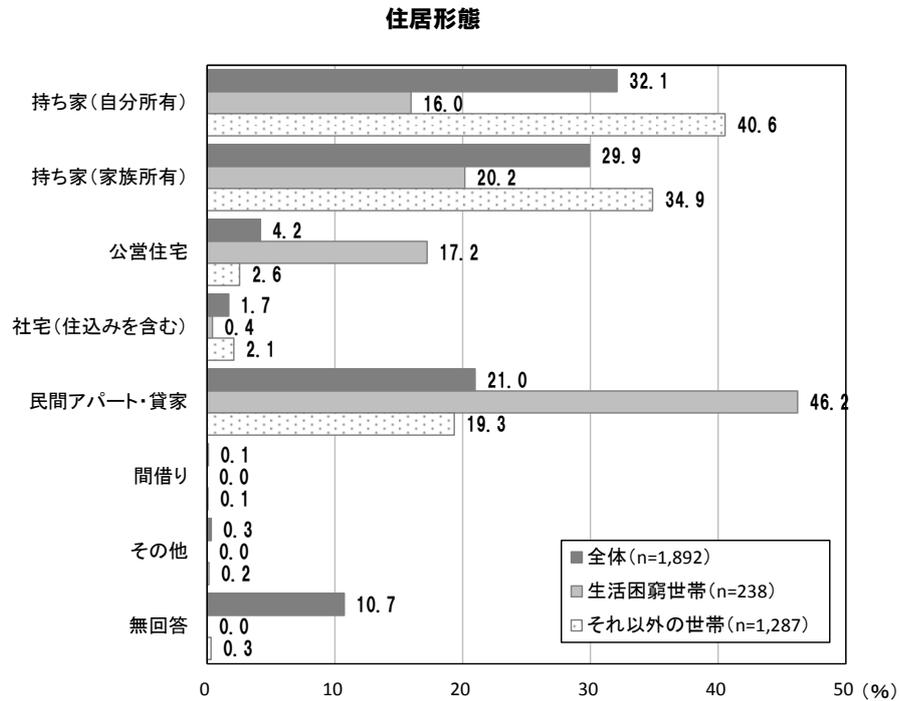
なお、類型化を行うための設問への回答がない世帯については類型化ができないため、ここでの割合はこうした類型化不能の世帯を除いて算出しています。



## 主な集計結果

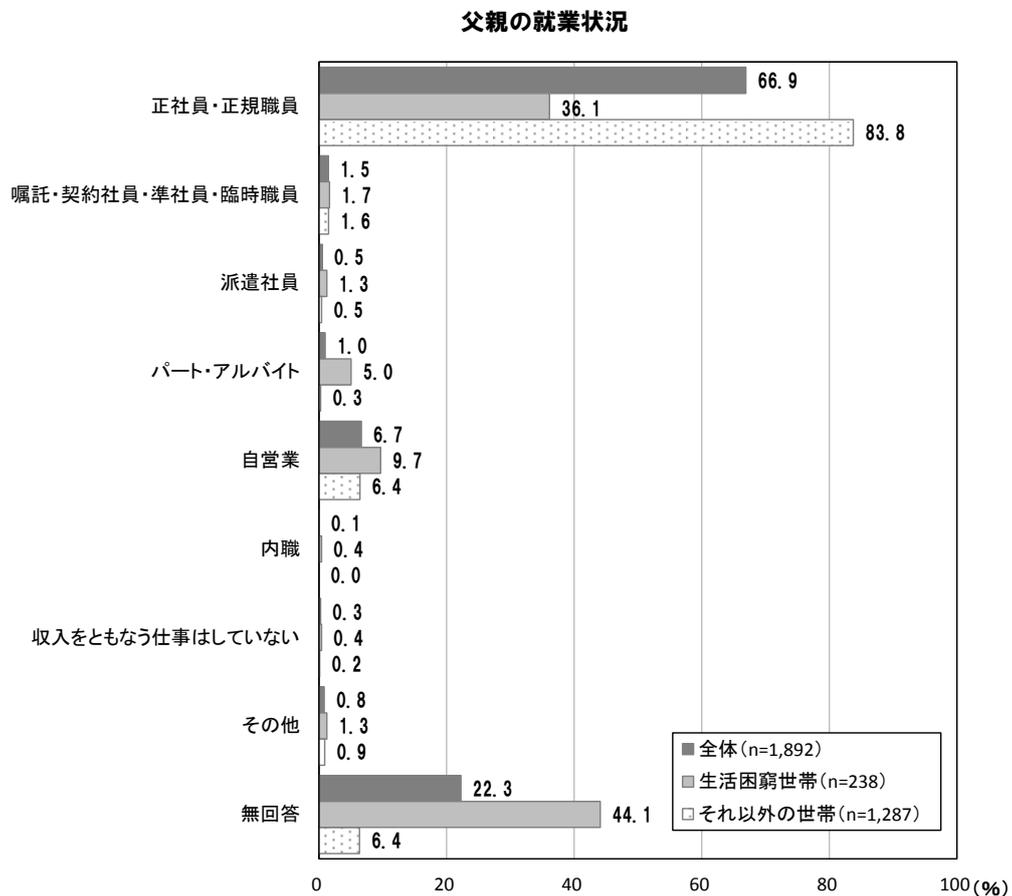
### [住居形態]

～ “生活困窮世帯” では “民間アパート・貸家” が 46.2% と最も多くを占める ～



### [父親の就業状況]

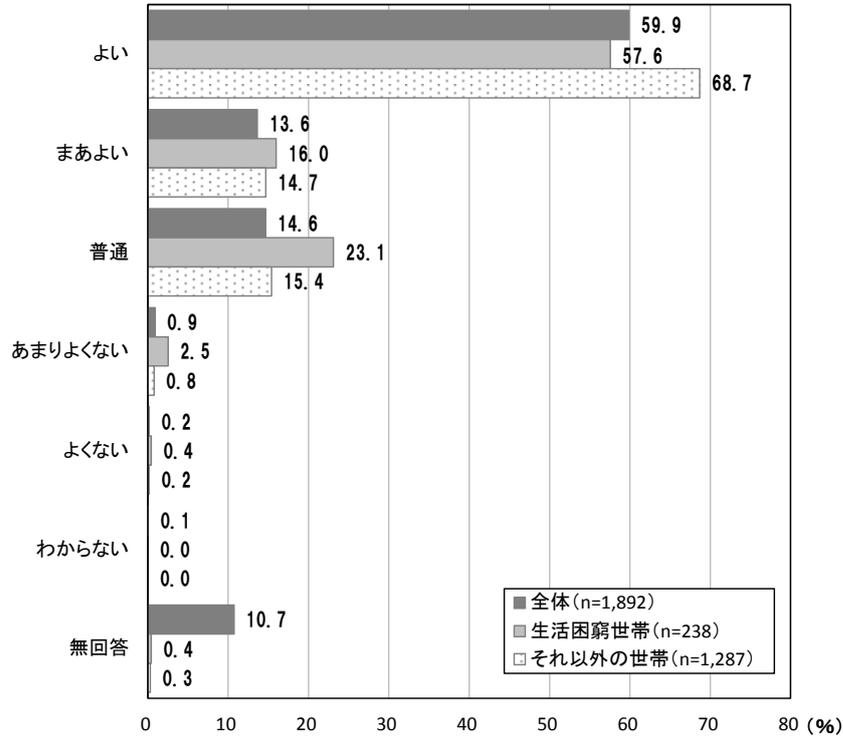
～ “生活困窮世帯” では “正社員・正規社職員” が 36.1% とかなり少ない ～



**[お子さんの健康状態]**

～ “生活困窮世帯” では “それ以外の世帯” に比べ、健康状態が “よい” 世帯が少ない ～

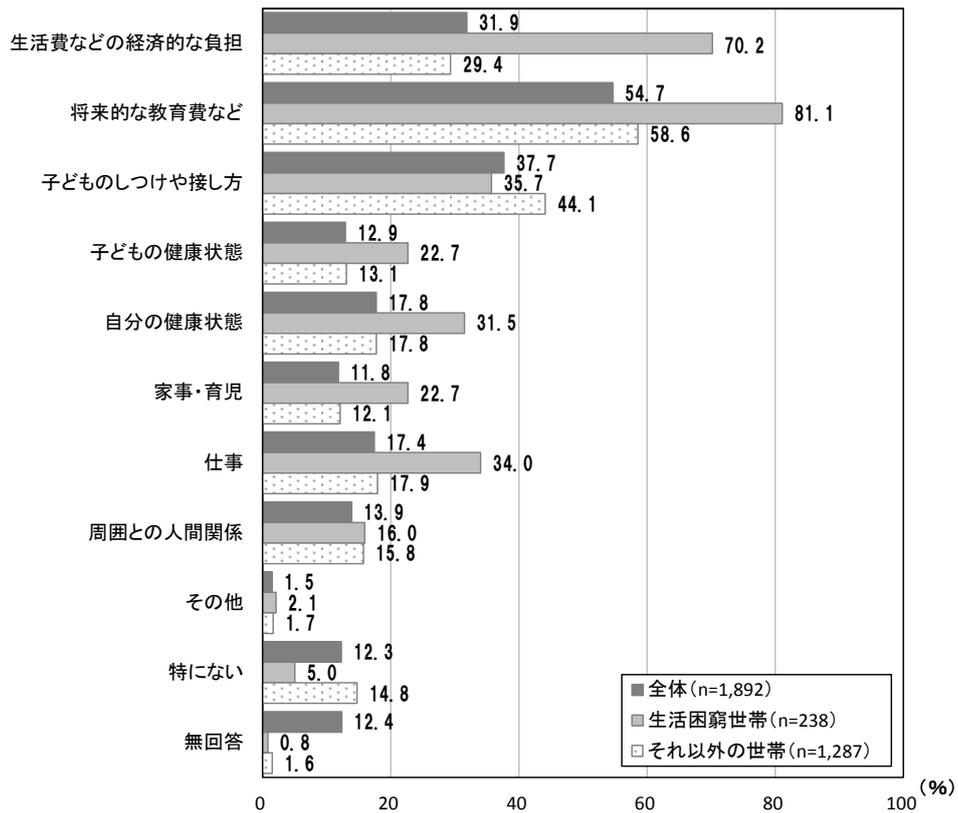
お子さんの健康状態



**[子育てについての心配や悩み事]**

～ “生活困窮世帯” では “それ以外の世帯” に比べ、心配・悩み事を抱えている世帯が多い ～

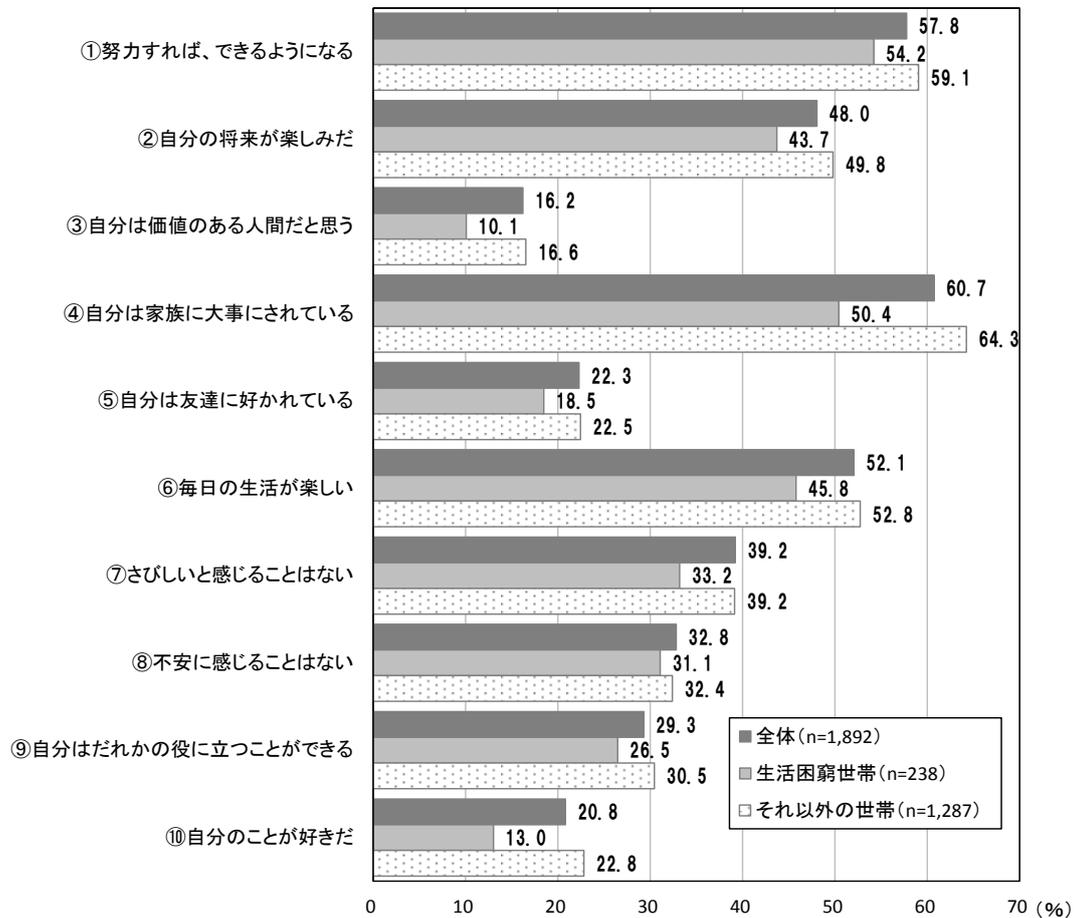
子育てについての心配や悩み事



[日常生活の中で感じていること（子どもへの設問）]

～ “生活困窮世帯” の子どもは自己肯定感が総じて低い ～

日常生活の中で感じていること（自己肯定感）  
 < “そう思う” の割合 >



両親の学歴と「親の進学見通し」、「子どもの進学希望」について

○両親大卒の場合では、子どもの進学希望は“大学”が最も多く 63.3%であるのに対し、両親がいずれも大卒以外の場合では子どもの進学希望は“高校まで”が最も多く 34.0%となっています。

○子どもの進学希望は、本来は自らの学力や将来の夢に基づくものであり、親の学歴とは無関係であるべきなのにも関わらず、親の学歴によって子どもの進学希望にこうした大きな差異が発生している状況は、長期的には学歴の連鎖を生み、それが“生活困窮世帯”そのものの連鎖となる可能性について留意していく必要があります。

両親大卒		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=98)	100.0%	11.2%	12.2%	63.3%	13.3%
	高校まで	2.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%
	大学以外	5.1%	1.0%	2.0%	2.0%	0.0%
	大学	72.4%	6.1%	7.1%	50.0%	9.2%
	その他・不明	20.4%	3.1%	3.1%	10.2%	4.1%

いずれも大卒以外		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=1,440)	100.0%	34.0%	20.7%	32.2%	13.1%
	高校まで	30.6%	16.7%	4.0%	5.3%	4.5%
	大学以外	12.2%	2.4%	6.0%	2.4%	1.3%
	大学	23.7%	3.5%	2.8%	15.5%	1.9%
	その他・不明	33.6%	11.4%	7.9%	9.0%	5.3%